



片岡さん(左)と田中さん(右)

Uwasamon うわさもん 若者応援

益城の若もんも、がまだしょっぱい!

町でうわさの若者を紹介。

夢に向かって全力で進む若者を応援します。

頑張っているもの

和楽器(箏)

名前 たなか かすみ 田中 佳寿美さん(16)

行政区 辻岡地

名前 かたおか りほ 片岡 莉帆さん(16)

行政区 広崎2町内

県立第二高等学校1年生

部活動/箏楽部

第39回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門県代表選考会金賞(7月の総合文化祭に県代表で出場)



「高校入学後の新入生歓迎会で、箏楽部の演奏に感動して思わず入部をしました」と箏を始めたきっかけを話すのは、県立第二高等学校箏楽部1年生の田中佳寿美さんと片岡莉帆さんだ。

学校の一角にある礼法洋室が箏楽部の部室。前を通りかかると、沢井比河流作曲の「糸と竹の時」を奏でる幻想的で軽やかな箏の音が流れてきた。部室を覗いてみると、16人の部員と済々黌高校の生徒5人が合同演奏会に向けて練習している最中であつた。その中で、片岡さんは高音を奏でる13弦、田中さんは低音を奏でる17弦の箏を弾いていた。「種類の箏が、それぞれの音域で曲の旋律を奏で合う。」

「箏を始めたのは高校生になってから。だんだん弾けるようになり、上達していくのが楽しくて。繊細な箏の音が好きなんです」と目を細める二人。

「最初は指先に血まめができて、それが痛くて痛くて。それでも我慢しながら練習しました」と片岡さんが話す。田中さんは「箏独特の楽譜が難しくて。だんだんと読めるようになってきたけど、五線譜と違って音の強弱などが書いてなくて。原曲の演奏を何度も何度も聴いて、曲調を理解するんです」と難しさを話す。

昨年末に開催された県予選を勝ち抜き、平成27年度第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会(7月)への出場を決めた箏楽部。「あと6か月。もっともっと基礎を練習して、正確さを身に付けます。目指すは上位入賞です」と、静かに目標を語る二人の情熱が力強く伝わってきた。